

京都市中央卸売市場第二市場運営協議会

令和5年3月23日（木）午後1時～

開 会 午後1時

進 行 中野業務課長

挨拶 長谷川場長

委員紹介（五十音順・敬称略）

出席7名：上畑尚弘、大西雷三、駒井栄太郎、田川弘美、新山陽子、宮本智子、山口道利

欠席2名：澤田季江、高松令子

委員9名中7名出席により、会議成立を報告。

（事務局 長谷川場長、中野業務課長、林市場活性化係長、林担当係長）

議事1「会長の選任」

新山委員を会長に選任。

山口委員を副会長に選任。

事務局から本運営協議会は公開であり議事録の内容を公開することを報告。

議事2「京都市中央食肉市場の令和3年度の取扱状況について」

事務局から資料1により報告。

新山会長：委員の皆様からご意見やご質問などございますか。

特に意見なし。

議事3「京都市中央食肉市場運営方針の進捗状況について」

事務局から資料2により報告。

田川委員：コンソーシアム事業について聞きたい。構成員に京都市中央食肉市場（以下「京都市場」と言う。）へ出荷する生産者とあるが、構成員はどれくらいいるのか。補助金が7,800万円交付されているが、補助金は京都肉のプロモーションや血斑低減の取組に使われているのか。

輸出担当係長：生産者は約100の事業者が参加している。

場 長：補助金はほぼ全額が頭絡の普及や血斑の低減の取組、輸出に係るプロモーションに使われている。

大西委員：京都府内産の牛の入荷頭数が減少している。PRしても売れる商品がない。現状をどのように考えているのか。

場 長： 京都府内産の牛の入荷が減少していることについては、本市としても問題意識を持っている。京都市場は中央卸売市場として全国から牛・豚を集荷しているが、地元京都産の牛は重要だと考えている。畜産のことになると京都市だけでは出来ることが限られているので、生産の現場に入っている京都府農林水産部畜産課と連携して取り組む必要がある。協議の場を設けて、卸売会社とともに対応を検討していく。

駒井委員： 卸売会社としても、京都府内産の牛を増頭してもらいたいと思っており、福知山で開催されている子牛のせりを手伝うなど、できることはやっていきたい。

大西委員： 今後輸出を増やしていくに当たり、設備や人員体制についてどのように考えているのか。

場 長： 現施設の設備面から輸出量を増やすのは限界に近付いている。今後、輸出を伸ばしていくには運用面での改善が必要だと考えている。例えば、一頭当たりの輸出量を増やすために、輸出できる相手国を増やしていくことや、効率的に受注できるように体制を改善することが必要だと考えている。

大西委員： 輸出用牛のせりを行ってほしい。相対取引では必要以上に牛を購入しなければならない。

駒井委員： 輸出のスケジュールを組むために、納品日から逆算してと畜作業や加工処理、検査書の発行などの事前調整が必要である。冷蔵庫の保管量の制限もある。そこでスケジュールを組みやすいように相対取引で行っている。

今後はせりでの対応を前向きに検討していきたい。

新山会長： 京都府内で子牛の繁殖が減少していると聞いていたが、肥育も減少していると聞いて深刻な問題だと思った。牛の市場価格は上がっていないが、農家の生産コストは上がっており、生産コストを賄えていない。農家とともに対応を検討していく必要がある。京都府と広域的な連携を進めていく必要がある。

議事終了

閉 会 午後 2 時